



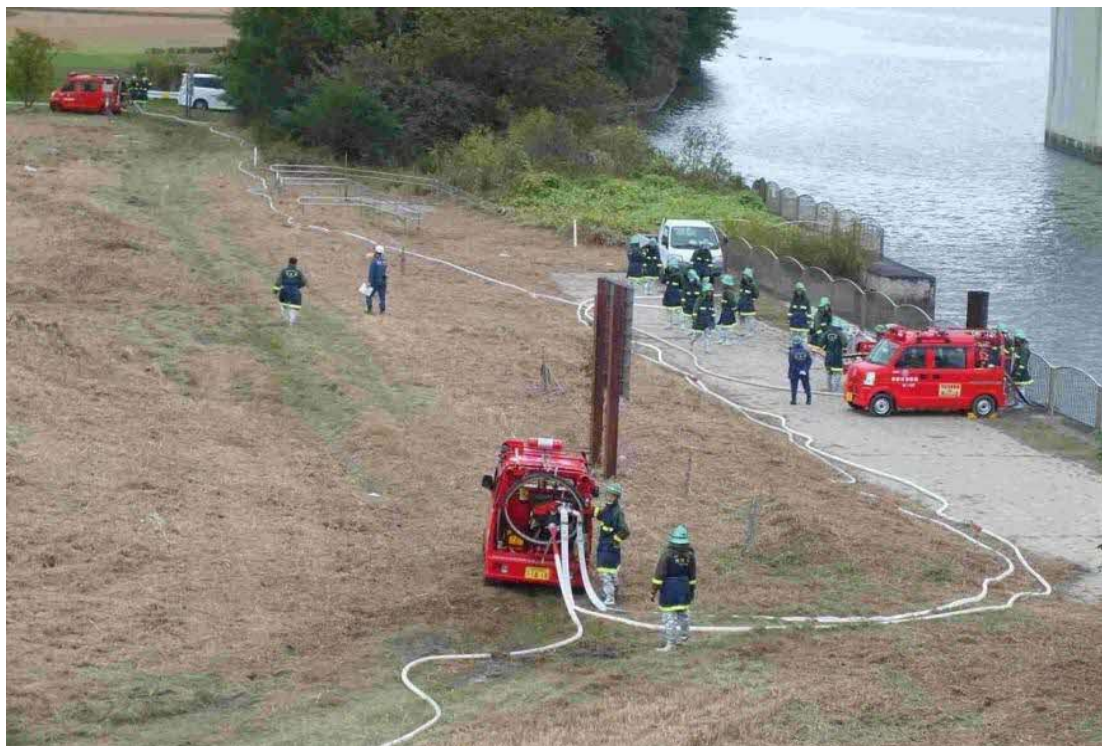
西新井 消防団だより

発行 令和 7 年 3 月 No.104W

編集・発行

西新井消防団 広報委員会

たとえ水利が遠くても、放水は出来る！ 河川敷にて遠距離送水訓練実施される



河川側の積載車は吸水用。反時計回りに中継、左上が第 2 中継で最後の 5 台目が手前の積載車

江北橋駅より高野駅の距離にあたります。)この距離を 5 台の可搬ポンプで中継し送水、筒先は 2 線にて放水を行いました。配置は河川の脇に吸水用の積載車を配置して、敷地を反時計回りにホースを延長。8 本のホース(160m)おきに中継用の 4 台の積載車を配置しました。ほぼ敷地を一周回った位置に最後の積載車が配置されて、そこより 2 線で放水を行いました。中継隊は前半と後半の 2 班に分かれて実施されました。水利からの吸水は、実際の使用では初となるフローティングストレーナーが使われました。中継もコワレンゾーを可搬ポンプに装着した上で、自動中継装置を使用して行われました。コワレンゾーは可搬ポンプに入る水の圧力が規定以上にかかるのを防止する装置で、規定以上の水圧負荷がかかると横についているホースから、高圧の水が排出されます。また自動中継装置は、可搬ポンプの給水口に圧力がかけると自動的にスイッチが入りポンプが作動する装置です。今回の訓練の目的は能登半島地震で直面した、水道本管の破損による消防水利使用不能時の対策と、限られた水利からいか

令和 6 年 11 月 10 日に荒川河川敷(第六消防方面本部荒川訓練所)にて、震災対応訓練の一部で、遠距離送水訓練が実施されました。

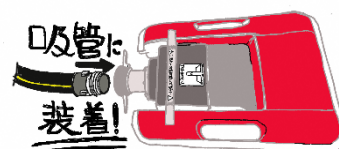
当日は 8 台の積載車と 1 台の手引きポンプが参加しました。水利を河川として延長約 680m(この距離はおおよそ、舎人ライナー



第 3 中継。右の奥に第 4 中継が見える



採水の様子。フローティングストレーナーが見える



フローティングストレーナー。下面に給水口がある

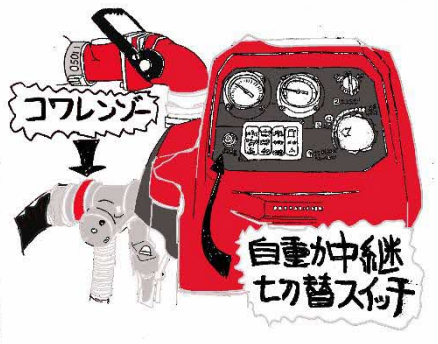
西新井消防団



左の部品がコワレンゾー



コワレンゾー作動中



切り替えスイッチはココにある

に遠距離の火点まで送水出来るかの検証となっていました。西新井消防団の警戒区域は北の毛長川と南の荒川に挟まれた区域であるという特性を利用した有意義な訓練と言えました。実際に訓練を行ってみて、課題点も浮かび上がりました。水利からフローティングトレーナーを使って吸水する際に、波で本体が水面より上がってしまう症状が多発し、水を吸えずに空気を吸ってしまう事が発生しました。その影響で可搬ポンプに十分な圧力がかからず、自動中継装置が働かないので送水できなくなりました。また無線を使っている状況把握が無かった為に、積載車の機関員に十分な情報が伝わらず、連携が取れなかった部分もありました。今回は機関員に熟練者が多かった事もあり、各機関員は目視でホースの張り具合や前後の積載車の状態を確認しながら判断していたとの事でした。最終的には自動中継装置を使わずに各機関員の器量で無事に送水する事が出来ました。西新井消防団では自動中継装置付きの可搬ポンプが100パーセント装備されている訳では無いので、この作業も実態に合った訓練となりました。今回の貴重な訓練から得られた経験は必ず次回の訓練に生かされます。

最後に取材中に一般の方から励ましの言葉をいただきました。土手の上にて取材活動を行っていた広報委員が、見ていた一般の方から「何をやっているのですか？」と、声を掛けられました。少し説明をしたところ、「すごいですね。守られている感じがします。頑張ってください」と励ましのお言葉をいただきました。消防団員がそこにいるという事で地域の希望となるように頑張っていきたいと思う訓練でした。

2024 年 歳末特別警戒

令和6年12月末に消防団歳末特別警戒を実施しました。特に年末にかけて各地で火災が多発しましたので、警戒活動をより一層強化し、取り組みました。活動中は多くの方々に声を掛けていただき、温かい気持ちになりながら活動する事が出来ました。



総合震災消防訓練

令和6年11月30日に総合震災消防訓練の一環として『参集訓練』を実施しました。当日は大規模震災を想定して各分団本部に集合し、万が一の震災の際に的確な消防団活動をするため、全団員真剣に取り組む活動しました。



西新井消防団

西新井消防団 始式

西新井消防団の始式が、多くの来賓にご臨席いただき盛大に行われました。昨年の活動成果や功績の表彰等が行われ、地域の安全を守る新たな一年がスタートしました。



決意表明をする新入団員

手話技能講習会が開催される

令和6年12月7日に消防団本部にて手話技能講習が、タブレットを使つてのZOOMによるリモートで開催されました。今回の講習会は緊急時や災害時に使われる避難誘導や火元の確認などを中心にした内容でした。都内29の消防団から参加があり、

西新井消防団からは6分団渡辺副分団長が参加して講師と実際に手話を交わしていました。消防団活動には新たに必要な技能と思われました。



令和7年東京消防出初式

令和7年1月6日に東京ビックサイトで行われた東京消防庁出初式にて展示を行いました。

当日は消防演技やはしご乗り等が披露され、防火・防災の重要性を呼びかけました。



成人の集いに向けての団員募集



令和7年1月13日東京武道館周辺にて足立消防団と合同で日頃の消防団活動を広く知っていただき

かつ消防団員募集を目的とした「消防団だより」の配布を実施しました。

当日は成人の日ということもあり、多くの晴れ着姿の女性やフレッシュなスーツ姿の男性が集う華やかな雰囲気の中、私たちも熱意をこめて消防団活動をPRしました。



西新井消防団 広報委員会の活動

広報委員会は消防団の活動内容や、地域の防災情報を住民の皆さまに伝え、地域全体の防災意識を高めることを目指して活動しております。

「消防団だより」の作成や、団員募集のPRなどさまざまな活動を通じて力を合わせて安心・安全な地域づくりを進めます。



西新井 消防団だより

Web版が
PC・スマホでさらに
より多い情報をご覧
いただけます！
右のQRコードで



わ が 街 の 消 防 団

2 分団 伊藤 康之

地元で地域社会への貢献をモットーに、7 年前に不動産会社を起業しました。この起業をきっかけに、もっと地域に貢献することができないかとの思いがつのっていました。その時に近所の知り合いの方が本業以外のところでも消防団員として活躍しており、その姿に強い影響を受け入団を決意したそうです。今では地域に密着した貴重な消防団員となっています。



6 分団 新原 寛一

東伊興 2 丁目在住、城南信用金庫で副支店長をしています。仕事柄地域の方との触れ合いをととても大切な事と認識しているとの事です。いつも温かいまなざしで接してくれる新原さん。地域密着の消防団には欠かせない団員です。



7 分団 添田 雅子

普段は区内で事務やイベントの運営をしています。入団した理由は令和元年の台風 19 号で消防団の活躍を目にし、自分も地域のために役立ちたいと感じ入団を決意しました。今後は訓練や活動を通じて災害時に的確に対応できる知識や技術を身につけるとともに、安心安全な地域づくりに寄与していきたいと考えています。



8 分団 小林 寛子

区内の保育園で事務の仕事をしています。入団しようと思ったきっかけは、職場で消防署の方と交流する機会があって救命講習を通じて興味がわきました。今後の抱負は、応急手当の勉強をして子供たちのための応急救護を身につけていきたいと思います。まだまだ学ぶことやわからないことが多いので頑張ります。



消防団員募集

問い合わせ先
西新井消防署 警防課
防災安全係

03-3853-0119

消防団って
ありかも！



入団資格

- ・ 18 歳以上の健康な方
- ・ 西新井消防署管内に居住・通勤・通学している方

まずは QR コードから
お気軽にエントリーしてください。

